

平成22年5月7日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520559

研究課題名（和文）将軍父子上洛と将軍宣下の政治社会史的研究

研究課題名（英文）Research on the SHOGUN TOKUGAWA HIDETADA and IEMITSU, Leaving for KYOTO, Coronation, and the Documents from a view of Political Sociology

研究代表者

山口 和夫（YAMAGUCHI KAZUO）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00239881

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・近世史・政治社会史・史料学・将軍・大名・洛中洛外・朝廷

## 1. 研究計画の概要

(1)本研究の目的:徳川将軍の上洛という日本近世史上、幕藩初期と幕末期に集中した大規模で特色ある事件のうち、元和9年（1623）の事例に時期・対象を特定し、4年間の集中的・系統的な共同史料調査と研究により、将軍秀忠・家光父子の上洛と将軍職交代の同時代社会への影響について基礎的事実を復元・解明しようとするものである。

(2)具体的な課題・論点:当初から膨大である事が予見された関連事象中、検証・究明すべき課題・論点を以下のように整理した。

①上洛供奉に動員された大名の対応、家中・領内への負担転嫁、沿道・滞在施設整備の実態究明。②沿道や洛中洛外地域社会で展開された儀礼や交流の研究。③江戸幕府・朝廷・藩の間で授受された文書等の史料学的・古文書学的研究と伝達回路の復元。

## 2. 研究の進捗状況

(1)初年（2007）年度成果:素材収集に力点を置き、①所属機関既集史料の把握を進め、②新たに「政宗君記録引証記」「慈性日記」善本・京都府立総合資料館架蔵史料・内閣文庫旧蔵本・毛利家中史料群等を調査収集し、③系譜史料からの当該年人物データ抽出を始めた。

(2)二年（2008）年度成果:史料分析とデータ整理を進め、①関白九条幸家辞職に至る経過で将軍(大御所)秀忠が人事権を掌

握し、後水尾天皇が容認していたことを解明し共著に寄稿(山口)、②洛中洛外の景観につき論文を発表(山口)、③近世都市江戸につき著書を出版(宮崎)、④毛利家中史料群を分析(宮崎)、⑤京都都市史料研究の論文・共著を執筆(及川)、⑥奈良春日社記録の原本調査・解説により寺家社家の動向を把握し(及川)、⑦山内家文書のテキストデータを作成蓄積し、系譜からの抽出作業を進めた。

(3)三年（2009）年度成果:①京都府立総合資料館・林原美術館・名古屋市蓬左文庫等から新規史料を収集、②主要史料読解・翻刻校訂作業により下記テキストデータを作成（【幕府関係】江戸城登城・将軍父子入京迎接・参内供奉命令を下達した年寄奉書、年頭に秀忠が在府大名等29名を召集した江戸城茶会記(各人所在も判明)、稲葉正勝の家光附取次就任関連史料。【大名家関係】上杉定勝家中上洛供奉借金銀帳。徳川義直系譜史料。池田光政主従上洛供奉・官位叙任・拝領史料。蜂須家忠英元服・叙任関係史料。【施設】伏見城営繕関係史料。【地域社会】下京

入用帳簿類)、③系譜史料から人物史情報悉皆抽出し原文テキストを摘記した表形式データ一覧を成形(大名・旗本・御家人・公家・地下官人等計1189件)、④武家官位と天皇家・公家身分(山口)、京都都市史と史料学(及川)、毛利家中史料(宮崎)の研究を進めた。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

- (1)当初から研究課題を絞り込み特定・限定し、
- (2)当該期社会の諸階層で作成された史料の調査・分析に経験を有する研究者を組織し、
- (3)所属機関の環境・資源・設備にも恵まれ、
- (4)謝金等による作業にも適任者を得られた。

### 4. 今後の研究の推進方策

最終年度をむかえ、次の計画を立案した。

(1)関連史料の補充調査・収集・分析:3年間の蓄積を点検し、沿道と洛中洛外地域社会への影響の事例をさらに探究するため、京都府立総合資料館、京都市歴史資料館、叡山文庫等を対象に計画中。

(2)基幹史料の研究:幕府史料・大名家史料・諸日記・町共同体史料等につき、読解・記事抽出、翻刻校訂と史料学的検討を進める。

(3)情報処理作業:収集史料目録や人物史情報等のデータ整備の作業を進める。

(4)研究成果の公開:研究代表者・分担者を中心に成果を確認・点検し、知見や基礎史料・人物史情報等についてまとめ、研究会または研究成果報告書等で公開・発信する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- ①及川亘、毛利家文庫「遠用物」について、東京大学史料編纂所研究成果報告、2009-5、84-88頁、2010年、査読無
- ②及川亘、東京大学史料編纂所所蔵「芝大宮町文書」の町入用関係史料について、東京大学史料編纂所研究紀要、19、94-116頁、2009年、査読無
- ③山口和夫、江戸時代「洛中洛外図屏風」の景観・制作年代についての一考察、東京大学

史料編纂所附属画像史料解析センター通信、43、5-9頁、2008年、査読無

④山口和夫、近世の目録に記された屏風について、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、41、10-11頁、2008年、査読無

[学会発表](計4件)

- ①宮崎勝美、毛利家臣堅田元慶と同家伝来史料、東京大学史料編纂所第259回研究発表会、2010年3月15日、東京大学
- ②山口和夫、近世朝廷における天皇家の家職、近世の天皇・朝廷研究第3回大会シンポジウム、2009年9月12日、学習院大学
- ③山口和夫、「公武法制応勅十八箇条」の検討、朝幕研究会、2007年11月29日、学習院大学
- ④及川亘、町の経済—上京芝大宮町の算用帳、中世都市・流通史懇話会、2007年8月29日、若狭ふれあいセンター

[図書](計8件)

- ①及川亘(高橋慎一郎他と共著)、東京大学出版会、中世の都市—史料の魅力、日本とヨーロッパ、2009年、183-214頁
- ②山口和夫(加藤友康他と共著)、吉川弘文館、年中行事大辞典、2009年、別刷図版解説武家年中行事全8頁
- ③山口和夫(藤田覚他と共著)、山川出版社、史料を読み解く3近世の政治と外交、2009年、57-86頁
- ④宮崎勝美(単著)、山川出版社、大名屋敷と江戸遺跡、2008年、全101頁
- ⑤山口和夫(杉森哲也他と共著)、放送大学教育振興会、日本の近世、2007年、59-119頁

[その他]

ホームページ

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/collaboration/19520559.html>